

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アーリーライフクラブ・あいらぶⅡ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「保護者様や学校との連携を大切にした支援内容」 ・学校からの受け渡しの際に当日の様子を伺い、降所時には保護者様と顔を合わせて当日の大きな変化だけでなく小さな変化も漏らさずお伝えする。今後の支援内容に活かすことができるよう、情報共有する時間を大切にしている	・学校での様子は、受け渡しの際に一つでも支援に役立つ内容をうかがうことを意識して連携を密に取るようにしている ・降所時は、保護者様の送迎であることから、毎回顔を合わせ担当職員より直接その日の支援内容や小さな変化等をもれなく伝えることができているため、不安や悩みごと等早期に対応し問題解決することができ、今後の支援に繋げている	・利用者様、保護者様の不安や悩み事等を、安心して相談しやすい環境を整える ・学校、ご家庭とデイの三者で支援の情報共有を随時行い、支援の充実を図る
2	「食療育～食への興味とマナーを学ぶ」 ・3色食品群を意識した野菜中心のメニューを手作りで提供。季節の食材を使い季節感を演出、また、行事に合わせた装飾やテーマで特別感を体験し、苦手な食材でも他児と一緒に楽しく食べる経験を積む ・メニューに合った食具(スプーンや箸等)の使い方、挨拶や姿勢等、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける丁寧な支援	・季節の野菜を使って3色食品群を意識し栄養バランスに配慮したメニューを考案し提供している。行事を大切にし、その季節ならではの、地域ならではの味わいを知ることができるようにしている ・食具を使えるようになる為の個人の発達段階に合った手の機能訓練(にぎる等)、メニューに合った食具選びや食器の持ち方への支援、挨拶や正しい姿勢で気持ちよく食事をするためのマナーを伝えている ・長期休み等の昼食はお弁当持参のスタイルとし、保護者様の愛情を感じる体験を通して、食への関心を促している	・手作りおやつの色どりを意識し、視覚から食への興味を促す ・食育だけではなく食療育として、現在継続して行っている指先、握力のトレーニング、体幹機能の強化、バランス感覚を養う等の練習を個別により充実させていく

3	<p>「コミュニケーション能力を育てる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や職員以外の人たちとの人間関係を構築できる ・人との適正な距離感や場面に合った様々なコミュニケーションの方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる和太鼓レッスンを通して、運動や伝統文化活動へ積極的に取り組み、身近な大人以外の関わりの学びを促す ・小集団での活動(かるたや言葉カード等のゲーム遊び、リトミック等の運動)に取り組む中で、人との距離感や様々な場面に合った行動や言葉の使い方等のコミュニケーション能力の向上を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓レッスンでの他者との適正な関わり方の支援や助言をさらに充実させていく ・集団活動を通して自発的な要求を引き出していく
---	--	---	---

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>定期的な保護者会やペアレントトレーニングが十分に行えていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・降所時に直接顔を合わせて保護者様と話ができるため、連携が取れているが故に定期的な保護者会やペアレントトレーニングにつながらない ・送迎時に保護者同士で話し合う機会があるため、自然に横のつながりができている。その場に職員が交ざり話すことも多いため、保護者会等の集まりに参加が少ない 	<p>送迎時に保護者様が不安や悩みを相談できる環境を今以上に整えることでペアレントトレーニングにつなげ、ご家族の日常生活の不安を軽減できるようにしていく</p>
2	<p>放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもとの活動する機会がない</p>	<p>利用児童の特性等により、放課後児童クラブとの交流や児童館の利用の難しさがある。また、地域の他の子どもと活動する機会を設けることが難しい</p>	<p>総合福祉センター等の催し物に参加する機会を作り、交流を深めていく</p>
3	<p>定期的に通信やホームページ、SNS等での情報の発信ができていない</p>	<p>活動の様子やおやつ等を写真で事業所玄関に掲示することで、送迎時に伝えることができるようにしているため、ホームページ等のSNSでの発信ができていない</p>	<p>降所時に直接保護者様と話をする際に、丁寧に説明ができるよう、活動中の写真等を掲示してわかりやすく伝えていく</p>